

# ハートフルなんぶ

2026. 2月号 vol. 323

長野市立南部図書館

〒388-8006

長野市篠ノ井御幣川 1201 番地

TEL (026) 292-0143

FAX (026) 292-0559

<https://library.nagano-ngn.cd.jp/>

## 第174回 直木賞・芥川賞 決定！！

### 直木賞

『カフェーの帰り道』 嶋津 輝／著

### 芥川賞

『時の家』 鳥山 まこと／著

『叫び』 畠山 丑雄／著



## Essay

### 「たゆたいながら沈まずに」

はじめて本物のゴッホ『ひまわり』を見たのは、十九歳のときだった。新宿にある美術館。けれど、そのひまわりは「初対面」ではなかった。実家で母が気に入ってキッチンに飾っていたからだ。保険会社でもらった布製のタペストリー。ペラペラのそれは、わたしの生活の背景としてそこにあった。何度も目にしてきた、なじみのある絵。だから私は、その絵があると知ったとき、少し油断していたのだと思う。知っている絵だ、と。

今思えば当たり前なのだが、実物は想像を超えていた。とても生々しい絵だった。だけど美しいとも思えず、やけに重い黄色の絵の具が、いまま記憶にこびりついている。

その後、ずいぶん時間がたってから、原田マハさんの『たゆたえども沈まず』を読んだ。そこで知ったのは、恐らくゴッホは決して達観した画家ではなかった、ということだ。

小説の中のゴッホは、ひどく乾いているようだった。

牧師の息子として生まれ、やがて自らも牧師を志した。人を救いたかったし、神に選ばれた生を生きたかった。けれど牧師としても受け入れられず、次に画家として生きようとしても、理解されなかった。愛されたい、受け入れられたい、ここにいていいと言われたい。そんなふうに、私は感じた。

小説を読んでから、どうしてもゴッホが描いた糸杉の絵を見たくなった。糸杉は、ヨーロッパではごくありふれた、細く高く伸びる木だ。墓地や修道院のそばに立ち、空へ向かってまっすぐ伸びるその姿は、オベリスクや、善光寺のご開帳で立てられる御柱のようにも見える。病院の窓から、ゴッホもまたその糸杉を見ていた。有名な《星月夜》にも描かれている。

糸杉を見に行ったのは、コロナ禍。世の中全体が息を詰めているようで、私自身も、理由のはっきりしない息苦しさを抱えていた。ゴッホ展の情報を得たわたしは、思い切って休みをとり、一人で電車で名古屋の美術館へ行った。

わたしは展示室で糸杉の前に、なんだか、いま世の中がわけがわからないけれど、わからないままで、いいや、と思った。

宮沢賢治の「雨にもまけず」も、完成形の詩ではない。「そういう人に、わたしはなりたい」と、なれていない自分を含んだまま書かれている。早く答えを出そうとすると、苦しくなる。

ゴッホはそれに耐えきれなかったのかもしれない。三十七歳の若さでこの世を去った。それでも彼は描いた。たゆたいながら、沈まずに。

寄稿：夕焼けざくろ

## 2月の 新刊案内


『グロリアソサエテ』朝井 まかて／著 KADOKAWA <Fア>  
 『武家女人記』砂原 浩太朗／著 集英社 <Fス>  
 『ここにいるよ』真山 仁／著 祥伝社 <Fマ>  
 『60代、日々好日 時々ため息』唯川 恵／著 光文社 <914.6ユ>  
 『最後に先生からのお話です』鶴野 莉紗／著 KADOKAWA <Fヌ>  
 『晴れの日の木馬たち』原田 マハ／著 新潮社 <Fハ>  
 『ルーカスのいうとおり』阿津川 辰海／著 幻冬舎 <Fア>  
 『猿』京極 夏彦／著 KADOKAWA <Fキ>  
 『お稲荷さまの謎解き帖』朝水 想／著 双葉社 <Fア>  
 『歓楽の家』イーディス・ウォートン／著 彩流社 <933ホ>  
 『人とかかわるのがずっとつらかったあなたへ』帆足 暁子／著 草思社 <146ホ>  
 『世界の虫を食べてみたい』吉田 誠／著 緑書房 <383ヨ>  
 『偉大なるチキン野郎』リュウジ／著 扶桑社 <596リ>  
 『写真のこたえ』小林 紀晴／著 インプレス <740コ>  
 『22文字で、ふつうの「ちくわ」をトレンドにしてください』武政 秀明／著 サンマーク出版<816タ>  
 『観る技術、読む技術、書く技術。』北村 匡平／著 クロスメディア・パブリッシング <002キ>  
 『50のストーリーでつながりがわかるイスラムの世界史』宮田 律／著 中央公論新社<227ミ>  
 『痛みとは何か』ロブ・ボディス／著 大修館書店 <491ホ>  
 『帰宅後15分しか、かけません!無敵の仕事帰りごはん100』みき／著 KADOKAWA <596ミ>  
 『スパムの歴史』ケリー・A.スプリング／著 原書房 <648ス>



## 2月のテーマ 「ヨーロッパ」

『皇室とメディア』河西 秀哉／著 新潮社 <288カ>  
 『図説メディチ家の興亡』松本 典昭／著 河出書房新社 <288マ>  
 『廷臣たちの英国王室』ヴァレンティン・ロウ／著 作品社 <288ロ>  
 『世界の伝統ニット』日本ヴォーグ社 <594セ>  
 『イタリア食紀行』大石 尚子／著 中央公論新社 <612オ>  
 『食で読むヨーロッパ史2500年』遠藤 雅司／著 山川出版社 <383エ>  
 『「音楽の都」ウィーンの誕生』ジェラルド・グロマー／著 岩波書店 <762ク>  
 『ハプスブルク家の歴史を知るための60章』川成 洋／編著 明石書店 <288カ>  
 『イラストで読むヨーロッパの王家の物語と絵画』杉全 美帆子／著 河出書房新社 <288ス>  
 『ノブレス・オブリージュ イギリスの上流階級』新井 潤美／著 白水社 <361.8ア>  
 『<図説>食材と調理からたどる中世ヨーロッパの食生活』ハンネレ・クレメッティラー／著 原書房  
 <383ク>  
 『フランスの自然をいろどるクロスステッチ』ヴェロニク・アンジャンジェ／著 グラフィック社  
 <594ア>



 **南部図書館**  
**開館カレンダー**  
 開館時間：午前10時～午後6時  
 ■は休館日です

### 2026年2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

### 2026年3月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				